

5. 粟生頭首工の整備内容と実施後の状況

粟生頭首工の整備

本事業においては、三重県が策定した「宮川流域ルネッサンス事業」との連携を図り、河川環境の保全を目的として、新たに頭首工右岸側に下流放流工を魚道形式として整備するとともに、下流放流量を $0.5\text{m}^3/\text{s}$ から $0.842\text{m}^3/\text{s}$ (6/1～9/30)に増量し、宮川の河川環境の維持・保全に配慮した。

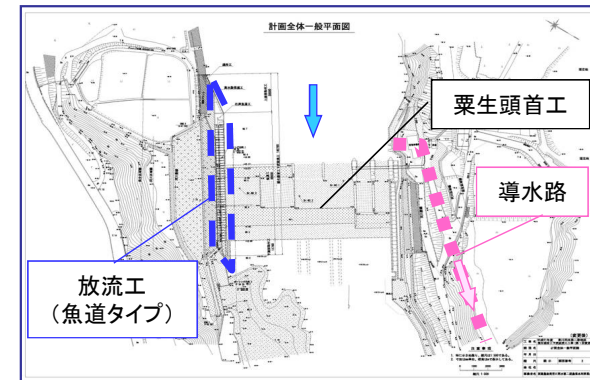
また、魚道については取水口がある左岸側に設置されていたが、本事業により右岸側に魚道を平成23年に新設し、現在では右岸側の魚道を利用している。



＜実施前＞



＜実施後、放流工整備＞

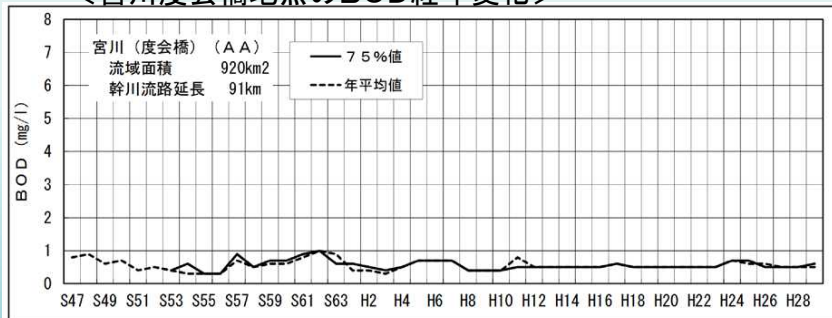


＜実施後、粟生頭首工全体＞

＜宮川の水質の推移＞

宮川におけるBODの経年変化をみると、 1mg/L 以下を維持しており、近年の数値も安定している。

＜宮川度会橋地点のBOD経年変化＞



出典：中部地方整備局資料

＜あゆの遡上状況＞

粟生頭首工の放流工（魚道形式）整備後の調査において、あゆ等の遡上が確認されている。



出典：「粟生頭首工魚類等遡上調査」結果（農政局調べ）

注：調査期間中（4～7月）の平均遡上数

6. 斎宮調整池の整備内容と実施後の状況

斎宮調整池の整備

斎宮調整池は1753(宝暦3)年にかんがい用のため池として完成し、前歴の宮川用水土地改良事業により、1号幹線水路の調整池として整備された。

本事業においては、下流域における安定的な用水供給を確保することを目的とし、隣の惣田池を含めて拡張工事を行い、貯水量を280千m³から2,000千m³とした。



<実施前>



<実施中：第3副堤の盛立>



<実施後>



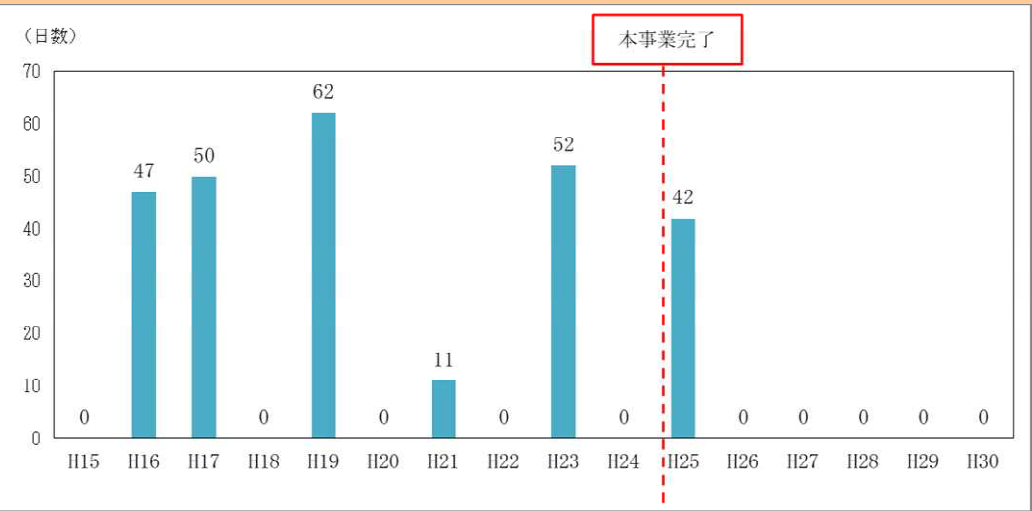
<実施中：取水工の施工>



<実施中：池敷の掘削>

<渇水対策実施日数の推移>

本事業の実施により、斎宮調整池の貯水量の増加及び幹線水路から末端水路までのパイプライン化により農業用水の安定的な確保が図られた。本地区における渇水対策(隔日通水)は事業完了前10年間の5回に対し、事業完了後6年間では1回と減少傾向にある。



参考データ：平成25年4～8月の宮川地点（大台町）の降水量は平年比48%

7. 大規模経営体（（株）小林農産）のご紹介

経営規模	25ha(H18) → 280ha(H30)
主要作物	水稻(主食用米227ha、もち米(加工21t／年)9ha)、小麦20ha、ばれいしょ19ha
事業実施を契機とした営農の取組	① 規模拡大 水路のパイプライン化等により、作業効率の向上、用水の常時確保が図られるとともに、農地中間管理機構を通じた農地集積を進めている。 ② スマート農業の取組 メーカーとの共同開発によりGPS田植機とトラクターを製品化し、平成25年度に導入。様々な面から農作業の効率化に繋がった。 ③ 6次産業化の取組 平成23年度に餅加工施設を整備し、賞味期限を1年に延長するなど改良、順調に売り上げを伸ばしている。平成30年度には「6次産業アワード奨励賞ICT技術活用賞」を受賞した。



＜GPS付き田植機＞



＜GPS付きトラクター(畦塗り)＞